

新雪をまとう三瓶山

厳冬の時期、三瓶山は厚い雪に覆われます。葉を落とした木々の茶色が目立ちますが、足を踏み入れると膝の上までずっぽり埋もれる深さ。地面がどこかわからないほどです。

山に厚く積もった雪は根雪になって春まで残り、ゆっくり溶けて地面に染みこみます。この水がわき水になって流れ、春から夏に里を潤します。

山の雪を見て、その年の米の出来を予想することは各地で行われてきました。雪によって

地下水がたっぷり蓄えられた年は水不足にならずに豊作、雪が少ないと夏に水涸れが起きて収穫の減少につながりやすいとされます。

近年は暖冬傾向が続いており、大雪が降っても数日後には気温が上がって、あっという間に雪が溶けてしまうことがあります。幸い水不足は起きていないものの、溶ける雪を見ると夏の水は大丈夫かと、少し気になります。

さて、今冬は雪にしっかり覆われた山を見ることができるでしょうか。



さむーい冬。つつい暖かい家の中にこもりがちになりますが、この時期にしか見られない寒さが作り出す景色もたくさんあります。三瓶でも、雪や氷がいろいろな姿となってあちらこちらで目を楽しませてくれます。長靴、手袋、帽子にマフラー…、さあ、準備をしっかりと整えたら、冬景色の中に飛び込んでみましょう！



ブドウかな？ 枝先1本ずつについた雪が玉のようになりました。湿気が多い雪の時に見られる現象です。



ころころころ。枝から落ちた雪玉が転がって、ロールケーキのような渦巻きになりました。



怪獣の牙？ 仙人のひげ？ 屋根のひさしから伸びて地面に届きそうなつらら。(建物は三瓶自然館新館)

標高が高い場所は気温が低く、おおよそ100m高くなる毎に0.5℃下がるとされています。標高600m近い三瓶自然館の付近は、大田市の平野部(標高10m程度)と比べるとおよそ3℃ほど平均気温が低く、上の数字が当てはまります。

ひとたび寒波が訪れるとその寒さはひとしおで、氷点下10℃前後まで下がることもあります。気温が下がるとあたりは別世界。雪と氷の造形をあちらこちらで見ることができます。

気温がぐっと下がった朝には、積もった雪の表面にちかちかと星のようなきらめきが見られることがあります。目をこらすと、朝日に輝いているのは六角形の小さな雪の結晶。そんな雪はさらさらで、ぐっとにぎっても雪玉にならず壊れてしまいます。

重く湿った雪が降った日には、まとわりついた雪によって木の枝が大きくたわみ、時折、ぱさっと一気に

落ちて枝が大きく跳ね返ります。こんな雪の日は、雪遊びにぴったり。雪玉を転がすと、あっという間に大きくなり、雪だるまができあがります。

大雪の後、気温が少し高くなるとつららが大きく育ちます。地面に届くほど巨大に育つこともあれば、不思議な形になることもあります。下は屋根の雪の先から伸びたつららが、タカの爪のようになったもの。雪



が軒先を回り込むように少しずつ降り落ち、つららが一緒に回転したことでこんな形が生まれました。

平地では見られないような冬の造形を比較的手軽に見られることは、三瓶山の魅力のひとつでしょう。平地から30分ほどで雪の世界。除雪のおかげで、自動車の走行もそれほど困難ではありません。道路の近くで冬山の気分を十分に味わうことができます。

近年は、登山ブームとともに冬山に登る人も多くなりました。登ることで見ることができる冬の造形も冬山の魅力です。しかし、危険と隣り合わせでもあります。積雪で登山道はわからなくなり、吹雪になると視界が失われるホワイトアウト状態が発生します。軽い気持ちで登山を試みることは禁物、手軽に登ることができる夏の三瓶山とは全く別の世界です。



三瓶自然館の天文台から山頂付近を見たら・・・、雪のモンスター発見！
近くで見たくなる光景ですが、冬山は危険と隣り合わせです。

生きものカレンダー

気象庁が実施している「生物季節観測」というのをご存知でしょうか？

その名のとおり、生物の行動や開花などをとおして季節の移り変わりを観測するものです。

桜前線としてとりあげられる「さくらの開花」はとても有名ですが、ほかにも「うめ」や「あじさい」の開花、「ウグイスの初鳴き」、「ツバメの初見」など、生きものたちが知らせてくれる季節の移り変わりを全国各地の気象台が長年にわたって観測してきました。

しかし、全国の気象台周辺で適切な標本木の確保が難しくなったり対象動物が見つけれなくなるなどの環境の変化などが理由で、今年の3月から一部廃

止されました。地球温暖化による生物への影響など、気になることが増えている昨今ですので、全国規模の一定の観測がなくなってしまうのは残念なことです。

でも、私たちの身近な自然を観察することはできます。自分で決めた基準木(毎年、定期的に観察する木)は、庭や公園にあるウメやアジサイでもできます。自宅裏山のウグイス、近所にやってくるツバメなど、身近なところで生息する生きものたちの季節に合わせた行動の変化を観察してみませんか？ 自然からのメッセージが伝わってくるかもしれませんよ。







ウグイスのさえずり。様々な要因で、早くなったり、遅くなったりという「波」があります。



ソメイヨシノの咲き始め。気温と開花の関係が解明されつつあります。



ツバメの初見日は早くなっている傾向があるとされますが、今年はどうでしょうか。

 月イチガク⑩ 海を旅した石見焼	2/5 ^土 14:00～15:30	石見焼を探して北海道へ。流通の状況とその歴史の調査に取り組む阿部志朗さんにお話をうかがいます。	定員：20名 料金：大人300円 小人100円	要予約 ONLINE オンライン視聴も可能
 歩くスキーで アニマルトラッキング	2/6 ^日 9:30～12:00	雪に覆われた北の原を歩き、足跡など動物たちの痕跡や冬眠中の昆虫を探して観察します。	定員：20名 料金：600円	要予約
 月イチガク⑪ 先端技術で年輪を読む	3/12 ^土 14:00～15:30	埋没林の年輪から世界の歴史が明らかになる？ 最先端の古気候研究を名古屋大学の中塚毅教授にうかがいます。	定員：20名 料金：大人300円 小人100円	要予約 ONLINE オンライン視聴も可能
 星よりも、遠くへ	3/13 ^日 13:00～14:45	東日本大震災がテーマのプラネタリウム「星よりも、遠くへ」の投影と「まい＆れいれい」のコンサート。	定員：100名 料金：入館料	要予約

要予約 このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに電話で予約を受付します。



三瓶自然館：0854-86-0500



三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500



三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

新型コロナウイルス感染症への対策として、臨時閉館や展示やイベントを一部制限、中止する場合があります。変更の場合は、HP等でお知らせします。また、毎週土曜日の天体観望会は予約制で実施しています。

縄文の森を探して

三瓶小豆原埋没林公園(さんべ縄文の森ミュージアム)では、ガイダンス機能を充実させるための改修が行われます。展示室の壁面に投影される映像では、縄文時代の森の雰囲気と火山噴火の迫力を紹介する予定です。映像制作にあたり、屋久島の森の撮影が行われました。下の写真は撮影風景です。



屋久島の森には、本土ではまず見ることができない奥深さがあります。しかし、埋没林から想像される縄文時代の森に近い雰囲気を探することは容易ではありません。この森も昭和30年代に大量伐採が行われ、多くはその後に育った木々です。至る所に切り株が残り、その上にすでに大木になった木が立っています。手つかずのままの森が残るのは立ち入りができない森の深部に限られるのです。

撮影は一般に立ち入りできる遊歩道を歩きながら、縄文の森を彷彿とさせる立ち姿の巨木や木肌の質感を探し、それらを映像の「部品」として切り取る作業です。この部品を組み立てて、埋没林が物語る縄文の森に近いイメージの映像を作ることになります。

この映像の投影は今春から開始し、埋没林の木々が生きていた時の風景を想像しながら、巨木を見上げていただけるようになります。

島根県立三瓶自然館サヒメル

■開館時間

9:30～17:00

■休館日

毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)

7/21～8/31は無休。

※年末年始、その他、メンテナンス休館あり



三瓶フィールドミュージアムニュース <隔月発行>

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501

<エコサガしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。

エコサガしまね(松江事務所)では、地球温暖化対策等の事業を行っています。